巻頭言

「来るべき国難級災害に備えて 2022」

令和3年度成果発表会

理事長　林　春男

防災科研は、一人ひとりが基礎的防災力を持ち、高いレジリエンスを備えた社会の構築に貢献すべく、あらゆる自然災害を対象にしてその予測・予防、発災後 の応急対応、そして復旧・復興までの全フェーズを対象として防災科学技術の研究開発を進めています。

南海トラフ地震や首都直下地震などの巨大な地震災害の切迫、あるいは気候変動による近年の大規模な風水害の頻発、どれをとっても今後国難級災害の危険性が日々高まっているように思います。

今年度の成果発表会では昨年から3年間続けておりますす国難シリーズの第2弾として、災害が起きても、それが国難とならないように 「予防」という側面に焦点を当て、「来るべき国難級災害に備えて2022 ～国難にしないために～モノで守り、行動を変える。」をテーマとして講演とパネルディスカッションを実施しました。会場には200名来場いただき、オンライン視聴を含めると、全体で700名を超える方にご参加、ご視聴いただき、盛況のうちに終了することができました。また今年で3年連続となる池上彰先生に特別ゲストコメンテーターとしてご参加いただき、忌憚のないご意見を頂戴しました。

第1部では 「ノイズデータがお宝になる。」というタイトルで、まず初めに第1部プレゼンターとして水・土砂防災研究部門 三隅良平研究員がノイズデータを活用することがブレークスルーにつながる期待についてお話ししました。続いて地震津波火山ネットワークセンター 松澤孝紀研究員が 「MOWLAS によるスロー地震の発見」、地震津波火山ネットワークセンター 澤﨑郁研究員と水・土砂防災研究部門 Shakti P.C. 研究員が 「Hi-net ノイズデータが洪水発生を知らせる」、火山研究推進センター 廣瀬郁研究員が 「地震波ノイズで火山の異常を検知」について防災科研の最新の研究成果を紹介し、最後にI－レジリエンス株式会社 小林誠代表取締役社長が 「データをお宝にする」と題して発表しました。今まで注目されてこなかったノイズデータの科学的重要性を示す研究と、データに社会的・経済的価値を持たせていくしかけを紹介しました。

続く第2部では、研究者一人ひとりが研究を紹介した動画あるいはポスターに対して、皆さんからWeb でいただいた評価をもとに、動画賞並びにポスター賞を発表、表彰しました。

第3部では、今回の成果発表会のメインテーマである「来るべき国難級災害に備えて2022 ～国難にしないために～モノで守り、行動を変える。」と題して、地震減災実験研究部門 田端憲太郎研究員が 「Eーディフェンスが見せる『モノで守る』技術の確かさ」、災害過程研究部門 永松伸吾研究員が 「事業者と共創する津波避難計画：尼崎鉄工団地での実践」、雪氷防災研究部門 山口悟研究員が 「地方自治体との共創に基づく地域の魅力向上への取り組み～国際スキーリゾート・ニセコにおける雪崩事故防止に資する情報プロダクツの創出～」について発表しました。それを受けて池上彰氏をモデレーターに、指定討論者として私も加わり、パネルディスカッションを行いました。

この成果発表会を通して、多くの方に私どもの最新の研究成果に触れていただき、これからの防災を考える何かの機会にしていただければ幸いです。私たちも、今回の議論を通し今後の研究のあり方にさらに磨きをかけて参る所存です。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。